

# 接尾辞ポイのモダリティ化

尾谷昌則  
東北学院大学

## 0. はじめに

本発表では、形容詞を作る接尾辞ポイが近年モダリティを表す助動詞としての用法を確立したことを指摘し、そのような文法化が起こった背景として、属性認知からカテゴリー認知へと向かう推論活動の語用論的強化があったと主張する。

## 1. モダリティ表現としてのポイ

### 1.1. 形容詞を作る接尾辞

- (1) a. 彼はとても子供っぽい。 [名詞+ポイ]  
b. 彼は {怒りっぽい／忘れっぽい／飽きっぽい}。 [連用形+ポイ]

### 1.2. 推量の助動詞用法 (<http://podxt.hp.infoseek.co.jp/index.html> から採取) <sup>1</sup>

- (3) a. うん、まー確かに学校の授業で習うばいことだし、  
b. アップデートできてないっぽい。  
c. MIDI がちゃんと通信できてなかったばい。  
d. レスが少なくてすべったっぽいよね。

### 1.3. ポイは本当に推量の助動詞か？

▲接尾辞用法は名詞や動詞の連用形に接続するが、助動詞用法は動詞の終止形に接続する。

- (4) 彼は {怒りっぽい／忘れっぽい／飽きっぽい}。  
(5) a. うん、まー確かに学校の授業で習うばいことだし、  
b. アップデートできてないっぽい。  
c. MIDI がちゃんと通信できてなかったっぽい。  
d. レスが少なくてすべったっぽい。

▲接尾辞用法は動詞の連用形に直結しているが、助動詞用法は動詞に直結しておらず、間にアスペクト要素（テイル形）、テンス要素（タ形）、否定（ナイ形）などが介在しているの  
で、(2)のポイは対事的モダリティ要素の位置にあるということになる。<sup>2</sup>

▲さらに終止形接続のポイは他の推量表現と共起できない。

- (6) a. \*横浜にはないっぽい {らしい／みたいだ}。  
b. \*LIVE はできないっぽい {らしい／みたいだ}。  
c. \*う〜ん、バグってるっぽい {らしい／みたいだ}。  
d. \*うん、まー確かに学校の授業で習うばい {らしい／みたいだ} ことだし、

▲連用形接続は「〜と断言できる」という表現と共起できるが、助動詞用法はできない。

- (7) 太郎は {怒りっぽい／忘れっぽい／飽きっぽい} と断言できる。  
(8) a. \*横浜にはないっぽいと断言できる。  
b. \*LIVE はできないっぽいと断言できる。  
c. \*う〜ん、バグってるっぽいと断言できるね。  
d. \*うん、まー確かに学校の授業で習うばいことだと断言できるし、

▲接尾辞用法は「すぐに〜する傾向がある」「〜しやすい性質である」という意味で、描写対象の性質・特徴を表している点で形容詞と認められるが、終止形に接続する助動詞用法は「〜だろう」「〜らしい」「〜のようだ」という推量の意味になっている。

<sup>1</sup> 日本語文法において、助動詞という品詞を設定することには様々な問題があることは承知しているが、ここでは便宜的に利用するだけである。

<sup>2</sup> 日本語における文法カテゴリーの語順については、一般的に＜ヴォイスーアスペクトーテンスー対事的モダリティー対人的モダリティ＞となることが知られている。詳細は南(1974)や庵(2001)を参照。

- (9) a. 彼は怒りっぽい。 ⇨ 彼はすぐ怒る性格だ。  
 b. 彼は忘れっぽい。 ⇨ 彼は忘れやすい性格だ。  
 c. 彼は飽きっぽい。 ⇨ 彼はすぐに飽きてしまう性格だ。  
 (10) a. 信号送受信が出来てない {らしい／ようだ／みたいだ}。  
 b. アップデートできてない {らしい／ようだ／みたいだ}。  
 c. MIDI がちゃんと通信できてなかった {らしい／ようだ／みたいだ}。  
 d. レスが少なくてすべった {らしい／ようだ／みたいだ}。

## 2. モダリティ表現への拡張

### 2.1. ポイの意味は何か？

▲例えば(10)が「このジュースは水と似ている」「彼の言動は子供のそれと似ている」とパラフレーズできることから、「似ている」や「共通点がある」といった意味とも解釈できるが、(11)のような例もあるため、単純にそうはいかない。

- (11) a. このジュースは水っぽい。  
 b. 彼の言動は子供っぽい。  
 (12) a. この畳は湿っぽい。  
 b. この部屋は埃っぽい。

▲尾谷(2000)では接尾辞用法の「X ポイ」の意味を以下のように分析

ポイの意味①：「X が基準値以上に多く含まれている」という<物理的な含有量>

ポイの意味②：「X の持つ属性が多く含まれている」という<属性の含有量>

### 2.2. ポイが推量の意味になった理由 → 語用論的強化

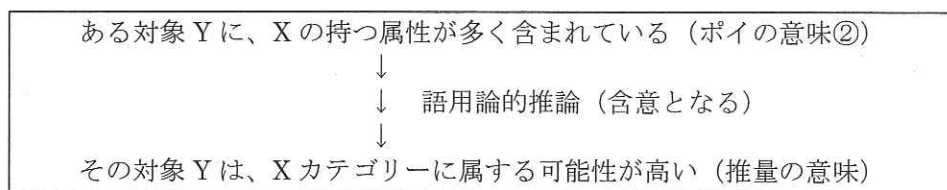


表 2.1

「ある対象 Y が、X の持つ属性を多く含んでいる」と、そこから「その対象 Y は、X カテゴリーに属する可能性が高い」と推論するのは当然である。例えば(12a)はコートの色について断言しているが、(12b)は「白色の特徴が基準値以上に多く含まれている」と述べるに止まっており、白色だとは断言していない。しかし「白色としての特徴が基準値以上に見られる」のであれば、「白色カテゴリーに属する可能性が高い」と推論するのは人間の自然な認知活動である。

- (13) a. 白いコート (断定 : そのコートの色は白である。)  
 b. 白っぽいコート (非断定 : そのコートの色は白の特徴を多く含む)

そのような含意と伴に繰り返し使用されたことで、ポイが可能性の高さを表す推量の意味を持つようになったと考えられる。つまり、推論によって得られる含意が慣習化するという語用論的強化によって接尾辞のポイが推量化 (つまり助動詞化) したと考えられる。

### 2.3. 推量用法の発達

ポイが推量のモダリティ化する際に重要な役割を果たしたのは、[名詞+ポイ]という構造。『広辞苑』でも、26 項目あるポイのうち名詞に接続していると考えられるのが 16 項目、動詞の連用形は 4 項目、それ以外は 6 項目であった。(表 2.2 参照)

|          |                                                                                               |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名詞+ポイ]  | 婀娜(あだ)っぽい、いがらっぽい、えがらっぽい、色っぽい、大人っぽい、黒っぽい、子供っぽい、白っぽい、艶っぽい、熱っぽい、埃っぽい、骨っぽい、水っぽい、理屈っぽい、気障っぽい、愚痴っぽい |
| [連用形+ポイ] | 飽きっぽい、怒りっぽい、惚れっぽい、忘れっぽい                                                                       |
| [その他+ポイ] | 荒っぽい、衰れっぽい、湿っぽい、俗っぽい、安っぽい、とっぽい                                                                |

表 2.2

また、Web サイトでもポイの用例を採取した。無作為に採取したポイの用例のうち 3 件以上ヒットしたものがどの品詞に接続しているかを調べた結果が右の表。<sup>3</sup> 名詞に接続している場合が圧倒的に多い。ただし、それらの用例は形容詞として語彙化しているものというよりは、「おそらく〜だろう」という推量用法が圧倒的に多かった(具体的な用例については末尾資料参照)。それに対して、動詞の終止形に接続しているポイは 53 例しかなく、ポイの推量用法は[動詞の終止形+ポイ]よりも[名詞+ポイ]の法が圧倒的に多いことが判明した。

[名詞+ポイ]の推量用法

- (14) a. 東芝 RD-X5 は Amazon が最安値っぽい。  
b. ありゃ、風邪っぽい....  
c. 自民単独過半数っぽいね。  
d. ディメンジョンって必殺技っぽいね。

| Type     | Number |
|----------|--------|
| 名詞+ポイ    | 808    |
| ナ形容詞+ポイ  | 35     |
| V 終止形+ポイ | 53     |
| V 連用形+ポイ | 17     |
| 品詞不明+ポイ  | 37     |

表 2.3

|   | 用例              | 構造         | 意味      |
|---|-----------------|------------|---------|
| 1 | 水っぽい、油っぽい、粉っぽい  | [名詞+っぽい]   | 物理的な含有量 |
| 2 | 子供っぽい、大人っぽい     | [名詞+っぽい]   | 特徴の含有量  |
| 3 | 単独過半数っぽい/必殺技っぽい | [名詞+っぽい]   | 推量      |
| 4 | もう終わってるっぽい。     | [動詞(終)+ポイ] | 推量      |

表 2.4

#### 2.4. 類推とポイの拡張 (c.f. Kajita 1977, Langacker 2000)

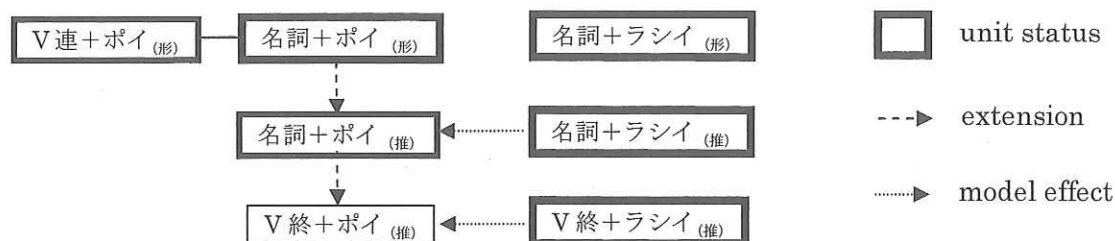


図 2.1

### 3. ポイと文法化

文法化とは、基本的には内容語が機能語へと変化することをいうが、ポイの場合は形容詞を形成する接尾辞であるため、機能語が別の機能語へと変化した例であり、これは非常に珍しいケースである。変化する前の語彙が何であるにせよ、文法化された結果としてそれが推量の助動詞になる例はさほど珍しくない。英語でも法助動詞の例がある。

Talmy(1988)は英語の法助動詞が根源的用法から認知的用法へと拡張した事実に対して、これを力のダイナミクス(Force Dynamics)によって捉えた。しかし力のダイナミクスを持たない「っぽい」は、これでは説明ができない。

Sweetser(1990)は現実世界から認識世界へのメタファー写像によって英語の法助動詞を説明しているが、ポイの場合は、単純に現実世界と認識世界に分割できるとは限らない。<sup>4</sup> 一見、「このジュースは水っぽい」という表現は現実世界について語っているようであるが、話者が「水を多く含んでいるようだ」と判断している時点で、すでに認識世界について語っているとも解釈できるからである。(そもそも形容詞自体、話者による何かしらの価値判断を表す語である。)

<sup>3</sup> データ採取と加工は古牧久典氏に協力して頂いた。記してここに感謝の意を表したい。尚、この採取した用例のうちヒット件数が多かった用例の上位 50 例については末尾に資料として付しておく。

<sup>4</sup> ただし、ポイの「物理的含有量」が現実世界についての意味で、「特徴の含有量」や「推量」を認識世界についての意味とすることはできるかもしれない。

Trougott(1989)は文法化に見られる意味変化を主観化(subjectification)という現象で捉えようとし、そこには3つの意味的一語用論的傾向が関与しているとしている。これは文法化が語用論的な要因によって引き起こされることを積極的に認めた分析であり、本稿におけるポイの分析は、彼女の挙げた傾向 III の「意味は、ある状況に対する話し手の主観的な信条や態度などを中心に表すようになる」に通じるものがあると思われる。

#### 4. おわりに

以上、ポイの意味拡張について見てきたが、本発表で主張したことは、①ポイはモダリティ標識へと拡張しつつある、②その根拠は、意味の違いと接続形の違いである、③意味が変化する際に、その橋渡しの役割を果たしたのが「ぼい」の含有量の意味であり、それが語用論的強化によって推量へと変化した、④推量の助動詞へと文法化する際、大きな役割を果たしたのが[名詞+ポイ]という構造である、⑤文法化の先行研究に照らして考えると、ポイは Trougott(1989)の主観化に近いと思われる、の5点である。

#### 参考文献

- 庵 功雄. 2001. 『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える』東京：スリーエーネットワーク。  
 Kajita, M. (1977) "Towards a Dynamic Model of Syntax". *Studies in English Linguistics* 5, 44-66.  
 Langacker, Ronald W. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 1: Theoretical Prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.  
 Langacker, Ronald W. 1990. *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*. Berlin: Mouton de Gruyter.  
 Langacker, Ronald W. 1991. *Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 2: Descriptive Application*. Stanford: Stanford University Press.  
 Langacker, Ronald W. 2000. "A Dynamic Usage-Based Model." in Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage-Based Models of Language*, 1-63, Stanford: CSLI Publications.  
 南 不二夫. 1974. 『現代日本語の構造』大修館, 1974.  
 尾谷 昌則. 2000. 「接尾辞「ぼい」に潜むカテゴリー化のメカニズム—「女っぼい人」は女ですか?」『日本言語学会第120回大会予稿集』168-173.  
 Sweetser, E. E. 1990. *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Talmy, L. 1988. "Force Dynamics in Language and Cognition." *Cognitive Science* 12, 49-100.  
 Trougott, Elizabeth. C. 1989. "On the rise of Epistemic Meanings in English: An Example of Subjectification in Semantic Change." *Language* 65(1), 31-55.

#### 参考資料：ネット上で採取したポイの用例 Top50 (データ提供は古牧久典氏)

| 件数 | ヒットした表現         |    |           |   |              |
|----|-----------------|----|-----------|---|--------------|
| 86 | 名前っぼい           | 11 | Wiki っぼい  | 6 | 蕎 っぼい        |
| 80 | 日記っぼい           | 9  | 駄目っぼい     | 6 | ヨガっぼい        |
| 25 | 技の名前っぼい         | 9  | 女の子っぼい    | 6 | ビーマニオンラインっぼい |
| 22 | 秋っぼい            | 8  | 日本っぼい     | 6 | オブジェクト指向っぼい  |
| 21 | ヲタっぼい           | 8  | 数学っぼい     | 6 | エッチっぼい       |
| 20 | ポイっぼい仙人(漫画の固有名) | 8  | ブログっぼい    | 6 | ないっぼい        |
| 19 | フレーズ検索っぼい       | 8  | ダメっぼい     | 6 | Python っぼい   |
| 18 | おもちゃっぼい         | 8  | コラムっぼい    | 6 | Mac っぼい      |
| 17 | 風邪っぼい           | 7  | 鬱っぼい      | 6 | Gmail っぼい    |
| 16 | 日記帳っぼい          | 7  | 無理っぼい     | 5 | 飽きっぼい        |
| 16 | 書くっぼい           | 7  | 場 log っぼい | 5 | 鉄道っぼい        |
| 16 | Copland っぼい     | 7  | 女っぼい      | 5 | 哲学っぼい        |
| 15 | 夏っぼい            | 7  | 犬っぼい      | 5 | 中国っぼい        |
| 14 | IT 系っぼい         | 7  | jpg っぼい   | 5 | 仕事っぼい        |
| 13 | 検索っぼい           | 6  | 油っぼい      | 5 | マリアっぼい       |
| 12 | パンクっぼい          | 6  | 師走っぼい     | 5 | ヒガミっぼい       |
| 11 | 春っぼい            | 6  | 休日っぼい     |   |              |